

お忙しい中貴重な時間をいただきありがとうございます。本日は、お題に頂いていました評価やゲーム等のアクティビティの他に、今求められている力についても触れていけたらなと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

【本日のおしながき】

1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

主体的な学びの視点から	対話的な学びの視点から	深い学びの視点から
<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを図る目的、場面、状況等を明確に設定する。 学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設ける。 発達の段階に応じて、<u>子供が興味・関心をもつ話題を取り上げたり、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定したりする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 単元に、情報や考えや気持ちを他者と伝え合う活動を設定する。 他者の考えに触れて自分の考えを振り返ったり深めたりするよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱がバランスよく育成されるように年間指導計画・単元計画を作成する。 コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確にした言語活動を設定する。 聞いたり読んだり、話したり書いたりする必然性のある言語活動を設定する。

研修ガイドブックより

「言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では・・・。」

自分の考えや気持ちを伝え合う
「本当のこと」を伝え合う

2. Small Talk

- 既習語句や表現を繰り返し活用する
- 対話を続ける
- ウォーミングアップではない、主たる言語活動の一つ
- まとまりのある話を聞いて理解したり、やり取りをしたりする
- 新教材（We Can!）5・6年生のみに設定
- 2時間に1回程度設定

5年 インプット中心、指導者と子供のやりとり中心
6年 子供同士のやりとり中心

【Small Talk のねらい】

- 「できるようにする」～外国語科の目標 既習語句や表現の活用
- 子供が伝えたいことを伝え合えるよう、対話を継続させることができるようにする
～子供のもっと聞きたかった、言いたかったを実現・既習語句や表現の活用
- そもそもコミュニケーションは、その場でなされるので、その場でやり取りができるようにする
～既習語句や表現の活用

【Small Talk の進め方例】

- ① 指導者と児童で簡単なやりとり
- ② 児童と児童でやりとり

話題の提供
言い出し方の提供

まずはやらせてみる

こんな Small Talk をするのに必要なものは何でしょう？

・言えなかったことを、既習表現に結び付けられるようヒントを出す

・みんなでどう表現すればいいか考える

③ 指導

④ 相手を替えて児童と児童でやりとり

既習表現を活用させる

【Let's Listen, Let's Watch and Think を活用して】

- ・まずは、子供と誌面を題材にやりとりをすることが、聞く内容のヒントになる
- ・聞く内容を予想させることが、聞くポイントになる

→今まで習った語句や表現からどれを使ったらいいかを考えて言えたとき、相手に伝わったときは、とても嬉しい。

※ We Can! 1 Unit 6 She can run fast. He can jump high. を例に

3. 読むこと・書くことについて

領域別の目標～読むこと・書くこと 小学校第5学年及び第6学年 外国語

読むこと	書くこと
ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。	ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。	イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

新教材

文を読んで書けるようになるために

- ・アルファベットの大・小文字に慣れ親しむ (Let's Try!)
- ・アルファベットの文字の認識
- ・アルファベットの文字を読む・書く
- ・アルファベットの文字には二種類の読み方があることを知る
- ・アルファベットの音に慣れ親しむ
- ・単語の認識
- ・単語に見慣れる
- ・単語を書き写す
- ・単語を聞いて初頭音分かる
- ・文中に単語カードを置く、単語を書き写す
- ・語群から選んで書き写す
- ・英文が読まれる音声を聞く
- ・英文を見ながらそれが読まれる音声を聞く
- ・英文を読む (音声を真似て言う)
- ・例文を参考に書く、清書する、友達の清書を読む

- ・意味と音が先
- ・聞いて、話してから少しずつ
- ・毎時間1文ずつ書きためる
- ・最後に書きためたものやテキストを参考に清書する

子供が自分で文を作りだして書いたり、初出文を読んだいすることではないことに十分留意する。

4. Can Do リスト

5. 評価について